

県内生産活動 持ち直し継続

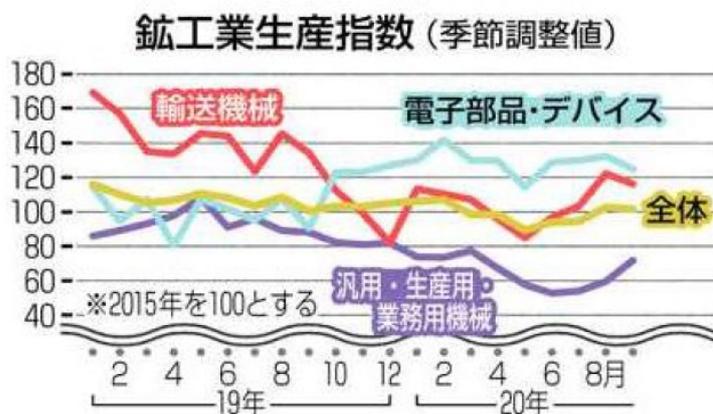
県内の生産活動が持ち直しつつある。鉱工業生産指数（二〇一五年＝100、季節調整済み）は、新型コロナウイルス禍の生産調整などで五月に89.5と大きく落ち込んだが、八月は102.7、九月は101.7と持ち直し、全国と比べても水準は高い。「電子部品・デバイス工業」や「輸送機械工業」などで、高水準あるいは持ち直しの動きが際立っている。

電子部品・デバイスは、クラウドサービスなどの普及による需要拡大、半導体市況の回復を背景に昨年後半から回復基調にあったが、コロナ禍でのリモートワークの広がりも追い風となり、五月を除き120以上の高水準を維持している。

自動車の主たる輸送機械は、前年比では低下しているが、下げ幅は縮小し水準を上げている。県内に大きな工場を持つホンダは、十月の四輪生産で国内が過去最高を記録している。

「汎用・生産用・業務用機械工業」では、産業用機械・装置や航空機向けなどは依然厳しい。感染状況も依然として予断を許さないが、県内企業の実業活動は今後も持ち直しの動きが続くとみられる。

（コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 谷ノ上 千賀子）



※グラフは中日新聞記事より転載

中日新聞「データを読む（百五総合研究所 谷ノ上千賀子さんに聞きました）」

2020年12月3日